

競技注意事項

1 本大会は、2023年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則および本大会要項によって行う。

2 競技場使用上の注意

- (1) 競技場への入退場は、すべて係員の指示に従う。
- (2) 競技者・役員以外は入場を禁止する。（監督・引率者・付添いの者などは一切入場禁止。保護者、生徒の観戦は必ず指定場所にて行う。）
- (3) 決勝線到着後の競技者の退場については、南ゲート（第1ゲート）の出入口から行う。

3 選手の招集について

- (1) 招集所は、北ゲート（第4ゲート）付近（100mスタート付近）に設置する。
- (2) 招集開始、招集完了時刻は次の通りとする。

	招集開始	招集完了
トラック競技	30分前	15分前
フィールド競技	60分前	40分前

- (3) 競技者は招集時間内に招集所で点呼を受けること。また、上記招集完了時間までに競技場所で最終点呼を受ける。（トラック競技者（リレーはアンカーのみ）は招集所で腰ナンバーを受け取る）
招集所通過後は、競技終了まで各校の控え場所等には戻れないので、競技に必要なものはすべて準備して来る。
- (4) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなす。
- (5) リレーについては、それぞれの競技場所に移動する。
- (6) 混成競技については、1種目目、4種目目は招集所を通過すること、それ以外は現地招集とする。
- (7) 欠場する場合は、競技開始1時間前までに、顧問が欠場届を招集所に必ず提出する。（用紙は招集所に用意する）
- (8) 招集所には選手以外は入場できない。（いわゆる「付き添い」の禁止）
- (9) リレー以外にも別な種目に出場し、競技時間が重なる場合には事前に多種目届けを招集所に提出する。（用紙は招集所に用意する）

4 アスリートビブスについて

- (1) 各学校に割り振られた番号のアスリートビブスを胸・背に付けること。ただし、走幅跳・走高跳・棒高跳に出場する競技者は、胸部または背部の片方だけでもよい。
- (2) トラック競技に出場する競技者（リレー競技はアンカーのみ）は、写真判定用の腰ナンバーをパンツの右横やや後方に取り付けること。腰ナンバーは招集所で受け取る。

5 競技運営について

- (1) 1回目以後フライングを行った競技者は失格となる。ただし、混成競技については、2回目以後のフライングで失格となる。
- (2) トラック種目には1000分の1秒で着順判定をする。それでも同着の場合は抽選とする。
- (3) セパレート競技において、決勝線到達後は自分のレーンにそって走り抜けること。
- (4) リレー競技のオーダー用紙は、招集完了1時間前までに招集所に1部提出すること。用紙は招集所

に用意しておく。また、4人が同系色のユニフォームで出場すること。

6 走高跳・棒高跳のバーの上げ方について

		練習	1	2	3	4	5	6	7
走高跳	男子	1 m 2 0	1 m 2 5	1 m 3 0	1 m 3 5	1 m 4 0	1 m 4 5	1 m 5 0	以降 3 c m
	女子	1 m 1 0	1 m 1 5	1 m 2 0	1 m 2 5	1 m 3 0	1 m 3 5	1 m 4 0	以降 3 c m
四種 走高跳	男子	1 m 1 0	1 m 1 5	1 m 2 0	1 m 2 5	1 m 3 0	1 m 3 5	1 m 4 0	以降 3 c m
	女子	1 m 0 0	1 m 0 5	1 m 1 0	1 m 1 5	1 m 2 0	1 m 2 5	1 m 3 0	以降 3 c m
棒高跳	男子	1 m 9 0	2 m 0 0	2 m 1 0	2 m 2 0	2 m 3 0	2 m 4 0	2 m 5 0	以降 10 c m

- (1) 両競技とも最後の一人になるまでは上表の通りとする。なお1位確定後は、本人が申告した高さで競技をすることができる。
- (2) 県大会出場権に関わる競技者が同成績の場合、順位決定戦（ジャンプオフ）を行う。ジャンプオフのバーの上げ下げは走高跳では2 c m、棒高跳では5 c m単位とする。

7 用器具について

競技に使用する用器具は、全て主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールは個人所有の物を使用すること（競技開始前に現地で検定を受け合格したものに限り）。

8 表彰について

- (1) 各種目の8位までに、賞状を授与する。
- (2) 共通・低学年男子・女子リレー優勝校には優勝杯（持ち回り）を授与する。

9 その他

(1) シューズの規定について（TR5）

1 0 0 m～ 4 0 0 m（ハードル含む） 2 0 mm
 8 0 0 m～3 0 0 0 m 2 5 mm
 フィールド 2 0 mm

※ 全員のシューズチェックは不要

WA承認リストにあるシューズを使用していることを前提に招集所や受付にてチェックは不要となる。

ただし、審判や審判長の権限により求められた場合はシューズをチェックする。チェックの内容としては、TR5. 13. 3（国内TR5. 2）にある厚さ等を確認する。違反と疑われる者はレース後、失格の判定を受ける場合がある。

※ フィールド競技用シューズのTR5. 5適応除外措置について

2024年10月31日までは、市販されているフィールド競技用のシューズについては適応除外となる。

- (2) 競技者の家族のみの観戦とし、当該競技者の競技が終わり次第帰宅する。